

# 日本語訳 非公式

スチュアート・コンバーバツハ大使によるプレゼンテーション  
アフリカ外交団/国際連合大学 アフリカ・デイ・シンポジウム

国際連合大学—東京

2007年5月25日

議長

賓客

閣下、同僚、紳士淑女

私が本日この場におりますのも、アフリカ外交団によって、来たる第四回アフリカ開発会-TICAD IVに向けて、準備調整をするためのアフリカ外交団委員会の議長に任命されたからであります。

我々のこれまでの主要な活動として、“TICAD IV に向けての提言”と題した文章を作成いたしました。この文章は在東京のアフリカの外交官として、特に TICAD IV、そして概して TICAD プロセスが、焦点を絞るべきだと我々が感じる領域に関し、我々の共同の提案が詳述されています。

日本に任命されたアフリカの大使として、我々が TICAD IV を確実に成功させるために、できることは何か行いたいと強く願っており、日本とアフリカが、真の互恵的パートナーシップにおいて、これまで以上にお互いの距離を縮めていくのを見届けたいとい望んでおります。TICAD IV に向けて、皆が準備をしている中、我々の文章が日本国政府並びに TICAD の共同主催者に役立つものであり、有効であることを願っております。

日本は TICAD のまさに中核をなしています。日本なくして TICAD を語ることはできません。故に、日本の指導力と日本が与える方向性は、TICAD プロセスの枠の中で、TICAD IV の成功を確実なものとするのみならず、全体としての TICAD プロセスの継続的妥当性と価値を確固たるものとするのには、決定的であります。

TICAD が発足した 1993 年には、それは唯一のフォーラムであり、単独のフォーラムとして、アフリカ開発問題に焦点が当てられました。しかし、今では唯一つではありません。アフリカに焦点を当てたフォーラムが今では多数出現しており、それらの顕著なものは、やはりアジアに起点が置かれています。TICAD とこれらの違いを引き立たせるものは、それらが、はっきりとした性格のものであり、行動指向型アプローチであるという点にあります。つまり、具体的結果に重きをおいて焦点を当てるというアプローチにあると言えます。より具体的には、本日ここにおける議論の主題である、アフリカとの貿易投資の促進

# 日本語訳 非公式

と円滑化にあるでしょう。

TICAD は、これらとは対照的に、その形式においては更に控えめであり、計りうるインパクトという観点からは更に控えめであったと言えます。具体的には、貿易及び投資促進イニシアティブに関してだと言えるでしょう。

TICAD の過去 14 年間の分析から、社会開発の分野で主たる努力が結集され、開発の“ソフトウェア”と称しうるものに主眼が置かれていたことが分かります。等しく重要な部門である、経済インフラを含めた経済発展には、この長い期間、注意が余り払われてはいませんでした。

このアプローチにおける不均衡と貿易投資に関し相対的に真剣に重きを置いてこなかったことは、TICAD が 14 年も経過している今、なぜ、日本とアフリカの間の貿易と投資の流れが、概して、下限に近く、日本の世界との貿易投資の流れの観点からも、まだ微々たるものであるのかという部分的な説明ができると思われれます。

残念なことに、しかし実のところ、TICAD プロセスのまさに基盤としての日本はこの非常に見込みのある傾向の周縁にとどまっています。

対日本アフリカ貿易という観点からも類似した像が浮かび上がってきます。過去 4 から 5 年の統計から、平均して、アフリカで生産された財とサービスは日本の総輸入の 1.5 パーセント強であることが分かります。加えて、2、3 の国を除き、その他アフリカ諸国は日本との貿易収支が一貫してマイナスであることが分かります。

アフリカの大使として我々は、もちろん、これを憂慮しており、この事態を残念であると感じます。TICAD 傘下でこれまでに立ち上げられた様々な貿易・投資促進イニシアティブは非常に効果的であったかという点、そうではないということが確かめられていることは、明らかであります。もちろん、アフリカ・日本の貿易・投資の流れに関して不十分であると言えます。

日本政府並びに TICAD 共催者は、2005 年の TICADIII 開催の後、さらなる前進の必要性を認め、また、この重大な分野において進歩があるとするならば、異なった、より柔軟なアプローチが採られなくてはならないことも認めました。

これにより、多くの新しいイニシアティブ、日本の制度的アプローチにおける柔軟性が見られるようになりました。これらは、

# 日本語訳 非公式

- JBIC がアフリカ開発銀行と提携して、アフリカ民間セクター開発のための共同イニシアティブ（EPSA）の 10 億米ドルの実施がなされたこと。
- 1 億米ドルのソフト・ローン便宜—JBIC/アフリカ開発銀行との提携—アフリカの中小企業向けの低金利貸付を目的とする。
- 日本貿易保険（NEXI）によるより柔軟なアプローチ、日本政府の輸出信用保険部門、貿易信用保険の適格国のリスト拡大
- 発展途上国における物品開発促進とその様な物品を日本に向けて市場参入させる日本による協調努力。
- 多くのアフリカ諸国に根をもつ一村一品運動
- JETRO/METI の 2006 年アフリカン・トレード・フェア及びやや規模が拡大された 2008 年度版のフェア計画
- アフリカのためのインフラ・コンソーシアム（ICA）傘下での日本政府が支援を約束した多数のインフラ・プロジェクトの特定

これらのイニシアティブ全ては、高く評価され歓迎されています。しかし、日本企業がアフリカに効果的かつ持続可能な形態で何らかの現実的進歩を望むならば、より多くのことがなされる必要があります。

我々にとって、非常に決定的な要素が抜け落ちているか、もしくは、まだこれらの素晴らしいイニシアティブを実施するために、また、アフリカ経済の成長と発展に目に見えかつ持続可能なインパクトを与えるより良い機会を与えるためには、まだ非常に決定的な要素がいまだ明らかではないようです。

アフリカの豊富な天然資源、そのエネルギー、戦略的埋蔵鉱山をふくめ、それが表象する潜在的市場、まだ発掘されていない人的資源、53カ国が一つのブロックとして持つ、成長している重要性と影響は、そのような決定の論理として実証されなければなりません。

アフリカは多くの難題に立ち向かい続けなくてはならにも関わらず、アジアでは益々、事実、世界各地でも、アフリカは胎動する大陸、恵まれた資源と豊富で増加する貿易投資機

# 日本語訳 非公式

会のある大陸であると認識されています。

アフリカにおけるこれらの変化した、また変化しつつある状況の重要性は、アフリカ、TICAD プロセス、TICAD 内での中枢役割を、日本の一般市民にそして日本私企業に向けて日本が紹介し、日本政府によって、認められかつ光を当てられなくてはなりません。

我々のここにおける経験では、日本の私企業は、日本政府が主導し、方向付けることによって多大な影響を受けていると見受けられます。

安倍首相による 150 人強の実務化訪問団を伴った最近の多くの中東諸国訪問からは、日本の政治的指導力によって送ることのできる合図の一つとして優れた例を作り、また、日本企業がアフリカと、アフリカに存在する豊富な機会を真剣に見つめるために、日本企業を説得するには、この事は非常に有益であることが分かります。

現在実施されている経済的手段その他の支援措置、実施する上での柔軟性の増加は、非常に喜ばしいことであります。それら事体において、これらの措置はアフリカの信用を反映しているものでありますが、しかし、再度、更になすべきことがあります。

TICAD IV を念頭に、以下の事項が考慮に値するのではないのでしょうか。

- ・日本が支援を既に特定している 7 つのインフラ・プロジェクトに関する更に進展。これに関して、また NEPAD が承認したプロジェクト、促進、日本企業との、建設、運営、譲渡方式 (BOT) 概念はより開拓される必要がある。これは、日本の投資を奨励し、アフリカへ技術移転する事を奨励する手段としてである。
- ・既存のアフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ (EPSA) はアフリカ準地域開発銀行向けに、各々の地域内での私企業プロジェクトへの更なる貸付のために拡大され開発されるべきである。既存の資金にアクセスする際の付帯条件の規制緩和の必要性。
- ・日本貿易保険 (NEXI) からの更なる柔軟性は輸出信用保険に関して要求されている。
- ・アメリカ版アフリカ成長機会法 (AGOA) の日本版策定の開発
- ・アフリカへの観光促進のための明確な支援計画の開発

# 日本語訳 非公式

貿易・投資部門、発展と成長を促進するために必要なインフラ供給はこれらの部門には不可欠であり、TICAD 枠組みの中では、むしろ見落とされてきました。これらは、現在変化しつつあり、更なる集中的努力がこの方向で具体的結果を達成するためになされるであろうことの合図であります。これは非常に喜ばしいことであり、奨励されるべきであります。

日本は、アジア開発で差異を作ったように、TICAD の原動力として、アフリカ現地で巨大な差異を作り上げるための資源、知識、技術を保有しています。

最後に、アフリカに向けてのこの軌跡における非常に重要な段階は、日本にとって、現在真にグローバルな力として、アフリカを進行中の戦略的パートナーだと認めることです。この認識から、そして、再度、活気付けられ、行動指向型の TICAD プロセスを通して、アフリカと日本の関係は、今日の援助に基づいたカテゴリーから互恵的パートナーシップへと進展していくことでしょう。

このような進展においては、様々な経済的手段とその他の措置が、日本とアフリカの間での貿易と投資の流れを促進し円滑化させるためにとられており、これらは、成功に向けてさらに良い見通しを与え、持続可能な発展に向けてアフリカの進歩という観点から、積極的なインパクトを作りあげることでしょう。

有難うございました。

東京

2007年5月25日